

実践報告

メキシコ・グアダラハラ市の「授業参観」

—幼稚園と大学、そして補習授業校—

Visiting Classes in Guadalajara, Mexico: Kindergarten, University and Japanese Supplementary School

野 中 弘 敏

Hirotoishi NONAKA

概 要

2015年9月に、メキシコ合衆国グアダラハラ市にある在外教育施設（補習授業校）、および現地の大学と私立幼稚園の授業をそれぞれ見学させていただく機会を得た。その中で、現地大学では学生の熱意と「専門領域の探究を通じた他文化理解」という視点から、補習授業校では海外で学び教える日本の子どもたちや教師の姿を通じて、「学びの再起動」を深く促していた。

1. 目 的

海外で生活する義務教育段階の日本の子どもは、平成26（2014）年4月15日現在で76,536人とされており、そのような子どもたちを対象に、国内の学校教育に準じた教育を実施する目的で、海外各地に日本人学校（50ヶ国・地域に88校）、補習授業校（54ヶ国に203校）などの在外教育施設が設立・運営されている。これらの教育施設は主に現地在留邦人の団体が運営主体となり¹⁾、全日制の日本人学校は文部科学大臣の認定を受けて日本国内の小・中・高等学校教育と同等の教育を行うものとされている。一方補習授業校は、日中は現地校やインターナショナルスクールに通う日本人の子どもが、一部の教科について日本語での授業を受けられる教育施設である（文部科学省、2015）。

本稿は、在外教育の実際に関する理解を深めることを目的として、メキシコ合衆国グアダラハラ市の補習授業校を見学した報告である。同時に、今回は現地の幼児教育・高等教育施設もそれぞれ

訪れる機会を得たため、それらについても併せて報告する²⁾。なお、今回の訪問にあたり、本学専攻科課程を修了した現地教員に協力を仰いだ。上記の目的に加え、学生の卒業後の進路に関する多様な可能性についてもなにがしかの示唆が得られ、それらの知見が日常の教育活動にも還元できることを期待しながらの訪問となった。

2. グアダラハラ市の沿革および教育施設訪問までの経緯

グアダラハラ（Guadalajara）市はメキシコ合衆国ハリスコ州の州都で人口約160万人、同国内では首都メキシコ・シティに次ぐ第2の都市である。渡航前の筆者も選にもれず、メキシコといえは「酷暑の砂漠・サボテン・ソンブレロ」といった通俗的なイメージを抱いていたが、標高約1,500mの同市は訪問時雨季ということもあり、日中は温暖で過ごしやすく、夕方に熱帯的な豪雨が短時間降ったあとは肌寒いほどの気候であった。16世紀のスペイン入植後すぐに市制が敷かれており、旧市街には大聖堂やデゴジヤド劇場、救貧院・孤



オスピシオ通り [Paseo Hospicio]
(グアダハラハ)

児院・病院などの複合的機能をもった19世紀の福祉施設「オスピシオ・カバーニャス (Hospicio Cabañas)」(UNESCO 世界遺産)をはじめ、植民地時代の古都の面影を残す建造物と、広場に憩い目抜き通りを行きかう市民の朗らかな表情が印象的な街である。

同市内にある日本人児童生徒のための補習授業校 (Colegio Japonés de Guadalajara, A.C. グアダハラハ補習授業校) は、1981 (昭和56) 年に開校された、平日放課後に毎日授業を行う世界に5校のみの準全日制補習校の一つである (在メキシコ日本国大使館, 2015)。今回は、本学専攻科保育専攻を修了し、当校で教鞭をとる斎藤英里香先生を通じて、校長の川住徹先生より当校見学のご了承をいただいた。両先生と当校訪問の日時・見学内容・方法について電子メールにて打合せを行い、斎藤先生が担任する幼稚部および小学6年生の授業見学を中心に、始業時の16時より終業時の20時まで一日校内を見学させていただくこととなった。

加えて、川住校長にご縁のある現地の公立大学 (Universidad de Guadalajara, グアダハラハ大学) および私立幼稚園 (Kid' s Kingdom) への見学についてもご提案いただき、有難くコーディネートをお願い申し上げた。グアダハラハ大学については、経済経営学部 (Centro Universitario de Ciencias Económico-Administrativas, CUCEA) 教授・同地域研究学科経済地域研究所研究員である岡部拓先生の講義を聴講させていただき、

Kid' s Kingdom 幼稚園は、見学日の午前中に園内全体をひととおり見学させていただくこととなった。

3. 訪問スケジュール

訪問年月日: 2015年9月8日 (木)

日程: 08:30～	宿にて川住・斎藤両先生と待合せ、川住先生の車で移動
09:00～09:30	Kid' s Kingdom 見学
10:00～13:00	グアダハラハ大学経済経営学部にて岡部先生の講義を聴講
14:00～15:00	昼食 ³⁾
16:00～18:00	補習授業校にて前半部の授業 (幼稚部) 等を見学
18:00～20:00	同 後半部の授業 (小学6年) 等を見学
～20:30	教職員打合せ、帰宅

4. グアダハラハにおける教育施設見学の詳細

(1) Kid's Kingdom 幼稚園

川住先生によれば、メキシコでは現地語のスペイン語に加えて英語を習得していることにより将来の就職への可能性が広がると考えられており、私立の幼稚園では英語による教育を掲げるのが流行になっているとのことであった。また街なかの幼稚園の数は日本よりも多く、夕方近くには保護者の「お迎え」の車で渋滞する光景が町のあちこちでみられ、混雑ぶりから「あの辺に幼稚園があるのだな」と察しがつくそうだ。他園の評判をきいたり教育方針に違和を感じた保護者が園児を転園させることもよくみられるようで、当園でも発表会やアートフェスティバルの様子をまとめたビデオを作成し来園者に視聴を勧めるなど、園児獲得のため自園の教育の独自性を熱心にアピールする様子がみられた⁴⁾。

園児数50名強の当園では、可愛らしいイラストなどが描かれたカラフルな壁面や各部屋の掲示板のことも「Welcome」「Library」「Good Manners Matter」「Don't forget to smile」など英語で表記されている。1歳半～2歳から5歳までの各年齢

のクラスの授業も拝見したが、描画の時間も数字カードを用いた数の勉強も全て英語で行われており、お客さんに気づいた園児が、好奇6割・不審4割といった眼差しで“Good morning.”と遠慮がちに手を振ってくれる。授業中あまりよそ見をすると、先生に注意されるのかもしれない。年長児クラスからは一部スペイン語で授業を行うとのことであったが、英語による教育を中心とした子どもの知的・情緒的発達や他文化理解を促す教育的取り組みに熱心な様子が感じられた。

(2) CUCEA (グアダハラ大学経済経営学部)

経済学・経営学・社会学・地域研究など社会科学系の学科を擁するグアダハラ大学経済経営学部の広大なキャンパスは、グアダハラ郊外のサポパン (Zapopan) にある。訪問時は午前中ということもあってか、緑鮮やかな芝生に憩う学生の様子はさほどみられなかったが、テキストを抱えた学生たちがキャンパス内や渡り廊下を行きかいひしめくさまは、国を問わずみられる活気にあふれた大学の光景であった。訪問に先立ち、比較法学・ラテンアメリカ商事法がご専門である岡部先生の論文をわずかながら拝読させていただいたが (岡部, 2008; アギラール セベラダ・岡部, 2014)、全くの門外漢である筆者にも辛うじて理解できる平易な筆致に、ご専門への造詣の深さと読み手への配慮がにじみ出るようで、深く感銘を受けながらの訪問となった⁵⁾。この日は、2年生が履修する「商法」の授業を見学させていただいた。



グアダハラ大学 [Universidad de Guadalajara] にて、学生さんたちと (グアダハラ)

定員40名ほどの教室はすでに満席である。始業時に岡部先生が、筆者・川住先生・斎藤先生を紹介してくださる。最後列に立とうとする我々に席を勧めてくれた男子学生が前の空席に移ってくれ、入口近くでは学生が隣りの教室から椅子を運んでくる。授業は主に、4～5名ずつの学生グループによるプレゼンテーションをめぐって展開される。学生の発表は、ある条文を提示し、それを解釈する際の論点を整理して、解釈上の結論を導き出す、という構成になっている。発表を受けて、フロアの学生からの質問に発表者たちが応答し、そこで述べられた見解に対して了解できるものには多くの学生が首肯し、誤りという反応が教室を占めると即座にフロアの複数の学生が反応し、誰かが挙手してそれを指摘し修正する見解を述べる。教師はその経緯を見守り、学生からの問いかけや確認があればそれに応じて解説を加える。学生間の、そして学生と教師との間のやりとりは、授業を通じて活発であり、残念ながらスペイン語が話せない筆者にも、学生たちの熱意⁶⁾が教室に満ちているのが感じられた。学生たちが自ら課題や誤りを発見し、より妥当な結論を導き出すべく思考し、発言を交わす。「拙いながらも、正解を導くべく取り組むその過程が大事だと思うんです」と語る岡部先生の言に、深くうなずいた。

授業の終わりに、岡部先生が学生からの質疑に応答する機会を下された。「こちらと日本の大学に何か違いはありましたか?」「日本では教師から学生への一方的な教授形態が主流だというのに、なぜあれほど成果 (経済的發展ということなのだろう) を上げているのですか?」「(以和為貴的な) 日本の哲学は、どのように日本の発展と関わっているとお考えですか?」など、次々と質問が飛び出す。学びの深まりは「いかに問いを立てるか」に顕れるものだと思い起こされる。経済については専門外の筆者のしどろもどろな返答を、岡部先生が優れた意識をして下さっていたのだろう、うなずく学生の様子を見て胸をなでおろす。気づけば始業から2時間を過ぎていた。

(3) Colegio Japonés de Guadalajara A.C. (グアダハラ補習授業校)

グアダハラ大学を辞したのち、岡部先生お勧



職員室（グアダラハラ補習授業校）



幼稚部の授業風景（グアダラハラ補習授業校）

めのレストランにて、川住・斎藤両先生と昼食。目の前でサルサ・ソースを和えてくれる様子を興味深く拝見し、鶏肉にカレーのようなとろみとコクの深い焦げ茶色のソースがかかったポブラノ・モーレ（Poblano Mole）⁷⁾を美味しくいただきながら、共に山梨ご出身の先生方に近況をお伝えするひと時となった。

グアダラハラ補習授業校は、閑静な住宅街の並びにある私立女子中高の校舎の3階（日本でいう4階）1フロアを間借りした形で運営されていたが、訪問時には女子校が移転しており、補習授業校の子どもたちが帰宅前に遊んでいるとき以外は、中庭のバスケットボールコートもひっそりとしている。一見壁のように目立たない校門をゲートキーパーに開けてもらい、校舎内の階段を登り切ると、学校名を示すプレートの下に掲示板に、「もりだくさん 2学期」と書かれた壁面が、折り紙のヒマワリとともに出迎えてくれる。壁面構成は専ら斎藤先生が担当されているようである。在籍児童生徒数は、日本の学齢で幼稚園年中児から中学1年生までの20名で、教室はおおむね学年ごとに割り当てられている。子どもたちは、日中は現地の学校やアメリカン・スクールに通い、終業後に補習授業校へ家の車で送られて登校する。16時からの前半部は幼稚部から小学3年生まで、後半は20時頃まで小学4年生から中学生の授業が、それぞれ2時限ずつ行われる。今回はともに斎藤先生が担任をされている前半部の幼稚部と後半部の6年生のクラスを見学させていただいた。

幼稚部の子どもは、年長児5名（男児3・女児

2）・年中児1名（女児）の計6名。自由遊びののち各自給水し、2列に並んで手をつないでお手洗いへ行ってから、この日は9月下旬に行われる学習発表会の各自の台詞を一人ずつおさらいし、その後は全校児童生徒で歌う「Story」（AI, 2005）のうち幼稚部が歌うサビの部分をおさらいしていた。学習発表会では「夕鶴」を全校児童生徒で演じるとのことだが、幼稚部の子どもたちも必ず一つは台詞を任されている。山梨から（「日本から」とは紹介されなかった）の珍しいお客さんが気になるためか、普段よりもそわそわしたり、隣のお友だちにちょっかいをかけたりする様子もみられた⁸⁾が、歌を先生とともに元気に歌うことができ、上の学年の子どもたちが歌う部分まで覚えていて、先生を驚かせていた。授業の後半は、小学1～3年生と合同で、学習発表会で使う小道具のさばき方を練習していた。伝統的な日本の文化に触れることを通じて、先生方は、いずれ「日本人としての自分」をどこかで背負いながら生きることが求められるだろう子どもたちに、アイデンティティの拠り所を伝えようとしているように思われた。

前半部の授業が終わり、後半部の子どもたちが登校してくる。前後半が入れ替わるひと時、前半と後半の子どもたち全員で「Story」を合唱。難しい歌い回しの曲にも関わらず、前半部の子どもたちは元気に、後半部の子どもたちは上手に歌っている。日本での暮らしから両親の仕事の都合でこちらへ渡ってきた子も、こちらで育ち、やがては両親とともに日本へ「帰る」子もいる。両親と

も日本国籍の子も、両親ともメキシコ国籍の子も、親がそれぞれの国籍を分かち持つ子もいる。生活環境の変化や習慣の違いに戸惑い続けている子もあるかもしれない。肌や目の色が「みんな」と違うことや、思いがなかなか伝わらない言葉の壁、この先何が待つのか分からない不安にさらされて、心にさまざまな気持ちを抱えてきた子もいるかもしれない。「1人じゃないから／キミが私を（私がキミを）守るから」（AI、同上）という歌詞に、お互いの存在でもって励ましあう子どもたちの、そして子どもたちを見守る先生方の思いが、託されているかのように響く。お迎えを待つ間のサッカーで、ルーズボールを校庭の隅に拾いに来た小学1年生の男の子が「ボクたち、すごいでしょ」と言い残して駆け去っていったのは、ボールさばきのことだけではないような気がして、心の中で「うん、まったくそう思うよ」と応じていた。

後半部で斎藤先生が担任されている6年生のクラスには、M君1人が在籍している。算数の授業の後、斎藤先生が筆者を交えてM君とお話する機会を作ってくださった。大学に行くまで、中学や高校ではどれくらい勉強したのか、大学ではどんな勉強ができるのか…など、質問にお答えする20分。M君は、将来技術者としてお父さんの勤めている会社に入りたい、という希望を聴かせてくれ、下校時に今日の業を振り返る「帰りの一言」では、一緒にお話したことを取りあげてくれた。頑張ってるね。

後半部の後半では、小学4年生～中学1年生が合同で、学習発表会で舞う際の扇と足のさばき方、そして場面ごとに台詞を確認しながらの通し稽古を行っていた。練習は今週から始めたばかりなので、台詞も立ち位置も所作も、これから少しずつ確認していくようであった。日本語を習得中の子の場合、単語の意味や読みの区切り、イントネーション、劇中での台詞のもつ意味合いなど、理解しなければならないことがたくさんあり、練習中はうまくいかないと感じられる機会も増えるであろうことから、フラストレーションがたまって周囲からは集中力を欠くような様子に見られることも多くなるだろう。授業の中では、先生方の働きかけは課題に取り組むべく促されることで一貫し



小学6年生の教室（グアダラハラ補習授業校）

ている。しかし、目の前の課題への関与を支えるより根幹的な関わりにおいて、先生方の思いは子どもとつながっているのだろう。練習中にはつい注意を受けることの多かった子も、迎えを待つあいだ、先生方を相手にしきりにじゃれるような様子が見受けられた。

20時過ぎ、子どもたちをすべて見送り、職員室で終礼が行われたのち、川住校長が先生方と筆者を車で送ってくださった。斎藤先生には残る任期をご壮健に全うされるよう祈り、川住先生とはご帰国後の山梨での再会を約しつつ、お別れの挨拶を交わした。

5. むすび

海外における日本人の子どもへの教育については、現地における適応、あるいは帰国後の教育機会の連続性の担保や学校社会への適応などの課題が考えられる一方、これらの在外教育施設に派遣される年間400人といわれる教員についても、修得した経験が帰国後の教育実践に十分生かされていないという指摘もなされている（森本、2011）。海外で暮らした子どもや教師が「帰国」ののちに、疎外感にさいなまれることなく、かの地で学び教えた得がたい経験を共有し生かせるよう祈ってやまない。

日々の業務だけでもご多忙であろうところ、グアダラハラ補習授業校の川住徹校長と斎藤英里香先生には、まる一日がかりの教育施設訪問にご同伴いただき、訪問前の打ち合わせを含め、ひとかたならぬご尽力を賜った。また同校の先生方も、

授業進行上の煩わしさを厭わず迎えてくださった。グアダハラ大学経済経営学部の岡部拓教授もまた、快く講義見学に応じてくださったのみならず、現地学生との交流とともに、法制度の探究を通じた他文化理解という示唆に富んだ新鮮な知体験の一端に触れさせていただいた。これら現地でお世話になった先生方、学びの場に迎えてくれたグアダハラ大学の学生の皆さん、そしてグアダハラで頑張る姿を通じて「学びの再起動」を促してくれた補習授業校の子どもたちに、深く感謝したい。

付記

本報告は、山梨学院短期大学研究倫理規程に基づく「人の研究に関する研究倫理審査」により承認された。(承認番号2015013)

注

- 1) 他に、日本国内の学校法人等により設置された学校が世界に8校ある。
- 2) 本報告における現地視察に際し、平成27年度山梨学院短期在外研究の助成を受けた。
- 3) メキシコでは平均的な昼食の時間帯である。
- 4) 川住先生によれば、今回の訪問が、どうも先方には子どもの入園先を検討中の保護者が来ると認識されたい、とのことであった。晴れて子どもを養育する立場になったなら、改めて検討させていただきたい。
- 5) 先生は謙遜されていたが、「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく」(井上ひさし) 語ることは、語り手の造詣の深さと伝える力の強さなしには果たせない。
- 6) 子細にみれば、同じ教室の中でも学生の熱意に温度差がみられるのは日本と同様である。岡部先生の語りから、グアダハラ大学の学術レベルは国内でも高いものの、学費がほぼ無償に近い公立大学の学生の質については、時に日本の平均的な私大よりも高額な授業料を求める現地私立大学と比較するのは酷かもしれない、という様子が見受けられた。しかしながら、時間が来ようと壇上の者が聞き慣れない日本語で長広舌をふるってようと、机にノートを開く様子が見られなかった学生ですら、教室にある間、「聴く姿勢」を崩す者はみられなかった。
- 7) 本来は、このソース自体を Mole と呼ぶ。川住先生によれば、主に使われているのはカカオ豆らしい。
- 8) 先生の質問に元気な声で答えたり、その合間に隣のお友だちをつついたりするたび、筆者と視線がチラリと合うのだった。

文 献

- アギラル セペーダ, ラウラ Y・岡部拓 (2014).
メキシコ労働法改正—多様な労働契約と海外直接投資におけるその効果 国際商事法務, 42(11), 1670–1678.
- AI (2005). Story ユニバーサルミュージック
- Kid's KINGDOM (2015). Nosotros. Kid's KINGDOM <<http://kidskingdom.com.mx/>> (September 16, 2015)
- 文部科学省 (2015). 海外で学ぶ日本の子供たち—わが国の海外子女教育の現状 (平成27年度版).
- 森本孝 (2011). 在外教育施設派遣経験の活用に関する一考察—派遣経験教員へのアンケート調査結果から 学校教育学研究 (兵庫教育大学学校教育研究センター), 23, 1–8.
- 岡部拓 (2008). メキシコ連邦労働法第47条に関する解雇事由の解釈について 国際商事法務, 36(7), 893–898.
- 在メキシコ日本国大使館 (2015). 補習授業校 在メキシコ日本国大使館 2015年6月4日 <<http://www.mx.emb-japan.go.jp/kazoku2.pdf>> (2015年12月28日)